

(1) ねらい

自分たちで想定した生活場面のロールプレイを通して、コミュニケーションに必要な相手意識や話し方等の方法が分かり、コミュニケーションの力を高める。

(2) 指導上の留意点

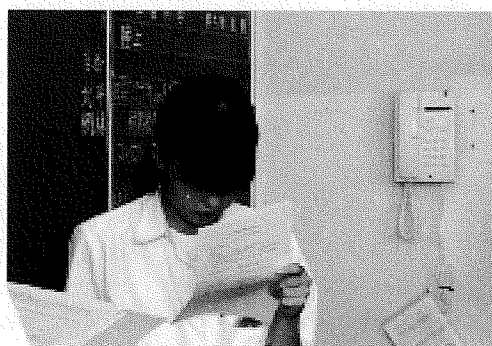
学級にある現実の問題点を直接とりあげる時には、生徒同士の関係や気持ちに配慮する。

(3) 実践記録

*学級の女子の中にいさかいがあったことを考慮して、ロールプレイ場面は指導案のものではなく、自分たちで考えるようにした。

【各班で考えた場面】

- 1班：大事なものをなくして
- 2班：転校することになって
- 3班：好きなドラマが最終回だから
- 4班：恋愛の悩み
- 5班：失恋して
- 6班：部活をやめようかどうしようか



○ 生徒たちが作った台詞の実際 (抜粋)

【2班：転校することになって】

- ・友達B 「Aさんなんだか元気がないんじゃない。どうかしたの。」
- ・悩んでいる生徒A 「別に、なんでもないよ。気にしないで。」
- ・友達B 「ふーん。」
- ・友達C 「どうしたの。なやんでるみたいじゃん。」
- ・悩んでいる生徒A 「うん。実は…転校するんだ。」
- ・友達D 「えっ、まじで？」
- ・悩んでいる生徒A 「うん。じゃあ、もう準備しなきゃいけないから帰るね。」
- ・友達C 「ちょっと待ってよ。また会えるよね。」
- ・悩んでいる生徒A 「うん、また会おうね。」

【5班：失恋して】

- ・友達B 「Aさん、なんだか元気がないんじゃない。どうかしたの。」
- ・悩んでいる生徒A 「いやーねー。好きな人にフラれちゃってさー。」
- ・友達B 「何で、フラれちゃったのー。」
- ・友達C 「そうだよ、そうだよ、何でフラれたんだよ。」
- ・悩んでいる生徒A 「自分でも分かんないんだよ。」
- ・友達D 「私、前フラれたことあるんだけど、立ち直れたから大丈夫だよ。元気出して。」
- ・悩んでいる生徒A 「でもなー。あきらめられないし。」

【6班：部活をやめようかどうしようか】

- ・友達B 「Aさん、なんだか元気がないんじゃない。どうかしたの。」
- ・悩んでいる生徒A 「部活のことで…。」
- ・友達B 「何？」
- ・友達C 「やめたいの？」
- ・悩んでいる生徒A 「うーん。今悩んでるんだ。」
- ・友達D 「今まで一緒にやってきたんだから、がんばろうよ。」
- ・悩んでいる生徒A 「うん。分かった。でも、もう1回考えてみるよ。」

〈話し合いと感想の概要〉

教師：ペアグループの発表を見て思ったことを発表してください。

- C 台詞の一言が、後に言う人の言葉にちゃんとつながっていたところがすごかった。
- C 短くても内容がはっきりしていた。自分たちのものと比べてしまった。

教師：代表グループの発表を見て思ったことはないかな。

- C 自分たちの班とちがうことをやっていてすごいと思った。
- C どちらのグループも、その人になりきっていると思った。

教師：自分でやってみて思ったことを発表してください。

- C 本当にそうならいやだなと思った。

教師：友達の意見や考えを「よく聞こう」というつもりで聞けましたか。

- ・聞こうとした：20人
- ・あまり聞けなかった：4人

〈授業者の考察〉

- 1 台詞作りに時間がかかってしまったが、各題材について、みんなが意見を出し合え、互いのコミュニケーションが自然にできて、満足そうであった。
- 2 悲しい思いを味わった経験のある子どもも、意欲的に台詞作りに参加できた。発表場面では堂々とできていた。
- 3 友達の台詞を使い、場面を想定して演ずることで、日頃は表現の苦手な子どもも、堂々と自分の考えを表現できた。

(4) 成果と課題

- (1) 生活場面をとり上げたロールプレイを通して、生徒が自分自身の考えを持ったり素直に考えを述べ合ったりして、互いにコミュニケーションを深めることができた。
- (2) ロールプレイをすることにより、疎外されたり悲しい思いをしたりしがちな生徒の中に意欲的に友と考え合おうとする姿が見られた。
- (3) 具体的な場面や話し合いを通して、友だちと自分の考えの違いに気付き、自分の行動の仕方を見つめることができた。

【課題】

- (4) ワークショップの中で気付いたことや学んだことを、生徒が今後の生活の中で生かしていけるような日常的な指導の工夫が必要である。また、生徒Aの感想を大事にし、悩みが解消できるための話し方を明らかにしたい。